

3/19 講演会 & 交流会のご案内 参加募集期日:平成 31 年 2 月 28 日

講師にジャーナリスト 笹井恵里子さんをお迎えします
演題「老けないカラダづくり-“乳製品の最先端(仮称)”」

ひろらく女性グループ連絡協議会(委員長 市川美智子)は、下記日程で講演会&交流会を開催しますので、酪農女性の皆様、今すぐスケジュール手帳に予定をご記入戴くとともに、参加申し込みは、当協議会事務局(広酪経営支援課)宛てにお願いします。

講演会講師には、今年 5 月 9 日発売の週刊文春で「老けない牛乳は鳥取にあり!」を執筆されておりますフリーランスのジャーナリスト 笹井恵里子さんをお迎えします。

講演会終了後は、恒例のコース料理に舌鼓しながら酪農女性によるおしゃべりで楽しんで戴く交流会も行います。

これら日程等の詳細は、既に封書郵便にてご案内のとおりです。

また、今回も出来るだけ多くの方にご参加頂けますよう三次市の支援事業「ほっとママ」の協力を得まして、小さなお子様をお預かりするよう準備も致します。



■日 時：平成 31 年 3 月 19 日(火) 午前 11 時受付・午後 3 時終了

■場 所：グランラセーレ三次(平安閣)

〒728-0014 広島県三次市十日市南一丁目 5-5 TEL:0824-62-1234

■講演会：演題 老けないカラダづくり-“乳製品の最先端(仮称)”

講師 フリーランスのジャーナリスト 笹井恵里子さん

■参加費 1,000 円/人 (就学前のお子様は無料です)

(プロフィール)

- ・1978 年生まれ・立命館大学中退
- ・「サンデー毎日」(毎日新聞出版)の記者を経て、2017 年 12 月よりフリーランスのジャーナリスト
- ・現在は、「週刊文春」を中心に、医療、健康問題等について取材執筆活動
- ・著書には「週刊文春老けない最強食」(11 月 22 日、TSS プライムニュースで紹介)「不可能とは、可能性だ。パラリンピック金メダリスト新田佳浩の挑戦」

【お詫びと訂正】

前月号 17 頁に掲載した上記記事の「笹井恵里子さん」のお名前が間違っておりました。お詫びし訂正致します。



酪政連の窓

平成 31 年度一般予算、酪農経営安定に 367 億円

日本酪農政治連盟では、昨年来、国に対して、酪農振興に必要な措置として、様々な政策要求をしていた中で、政府は、12 月 21 日の閣議で平成 31 年

度一般会計予算、30 年度第 2 次補正予算を決定したとあった。この概要は次のとおり。

▼一般予算(酪農関係)

加工原料乳生産者補給金、集送乳調整金など酪農経営安定対策に 367 億 7700 万円(所要額。前年度は 363 億 100 万円)などを計上。

▼第 2 次農林水産関係補正予算では、総合的な TPP 等関連政策大綱に基づく施策の中に畜産クラスター事業 560 億円、国産チーズ競争力強化 150 億円などを盛り込んだ。

▼国産牛乳乳製品需要・消費拡大対策として、学校給食用牛乳供給推進事業に前年並みの 6 億 8000 万円などが計上。

▼酪農関係の新規事業では、環境負荷軽減型酪農経営支援(エコ酪事業)に 63 億 3100 万円、畜産

経営体生産性向上対策に 30 億円を措置した。

エコ酪事業は、旧飼料生産型酪農経営支援事業を組み替えたもの。家畜排せつ物還元に必要な飼料作付面積を確保し環境負荷軽減に取り組んでいる酪農家に飼料作付面積 1 ヘクタール当たり 1 万 5000 円(有機飼料の場合は 4 万 5000 円)を交付する。

▼畜産経営体生産性向上対策は、酪農家などの労働負担軽減や省力化になる搾乳ロボット、AI、IoT など先端技術の導入や高度で総合的な経営アドバイスを提供するビッグデータ構築などを支援する内容となっている。

倉庫開所カレンダー 平成31年2月

■営業時間

営業時間		午前	午後
本所・東部 高宮	平日	8:45~12:00	13:00~17:15
本所	土曜日	8:45~12:00	—

日	月	火	水	木	金	土
					1日	2日
					本所 東部 高宮	本所
3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日
	本所 東部	本所 高宮	本所 東部	本所 高宮	本所 東部 高宮	
10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日
		本所 東部 高宮	本所 東部	本所 高宮	本所 東部 高宮	本所
17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日
	本所 東部	本所 高宮	本所 東部	本所 高宮	本所 東部 高宮	
24日	25日	26日	27日	28日		
	本所 東部	本所 高宮	本所 東部	本所 高宮		

倉庫・配達に関する問い合わせは 生産振興課(和田)まで ☎0824-64-2072

♡コラム♡ たじの多事総論

第八回 日本は畜産に 向いているか その二

さて、前回の続きです。

モンゴルを訪問し、「日本は魚もどれ、米も野菜もあるのに、どうしてわざわざ外国からエサを買って、家畜に食べさせているのか」と聞かれた私。確かに「そうだと思います。そしてまともに答えられない自分がいきました。」

確かに日本でも畜産が盛んな地域と云うのは、耕種に不向きなところですが、近年では品種改良なども進んでいますが、北海道は冷涼な土地のため米が育たず、代わりに草で生産することが出来る酪農がとて盛んです。私が二年間派遣されていた鹿児島も畜産が盛んですが、桜島により土壌が火山灰質で昔から米作に向いておらず、畜産が発展していったという歴史があります。なぜ日本はエサを外国から買うのか、それは外国のエサが安いからです。日本の大部分の土地は米や野菜が育つため、エサを作るよりずっとお金になるのです。耕種ができないからこそ、エサしか育たないからこそ畜産、それが基本的な考え方であることに気付きました。

モンゴルから帰国して、それを友人に話しました。「すでに畜産専門の公

務員として仕事を始めてるんだけど、日本は畜産に向いてないかも。わざわざ外国からエサを買ってまでやるべき産業なのかな。これからずっと畜産分野で仕事するのはなんか悩むなあ…」と。すると、友人から目が覚めるような一言をぶつけられました。「それって、日本は鉄が取れないから、車の製造には向いてないって言うようなもんじゃない?」と。

自分とはまったく違う視点でした。歴史や土地の性質、コストを考えた時、確かに日本は他の畜産大国に比べたら向いていないと言えるでしょう。ですが、消費者は、食品の「値段」に対して、「味」「新鮮さ」「安全性」といった様々な要素とのバランスに納得がいったとき、消費行動をとります。友人の一言で、「消費者が求めるものを生産できればそれは向いているということだ」と、すぐに考えを改めることとなりました(笑)。そして、このことに気付いたからこそ、常に消費者のニーズにアンテナを立てて情報を収集することは、生産者としてとても重要であると考えています。

P.S 先日、読者の方から「コラム読んでますよ〜いつも楽しみにしています」というお声をかけていただきました。とても励みになりますので、私と思われる人物を見かけたら、ぜひ感想を聞かせてくださいね!